

# 宿舎不死王閣にて 50 選手を支える人たちの声



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校  
新聞部  
彦根市金亀町4番7号

代表取締役社長

岡本 厚さん

本校野球部の宿舎である不死王閣の代表取締役社長を務める岡本厚さんは野球部について「滋賀県の代表校を受け入れるのは初めて。公立校が甲子園に出場するのは立派なことだと思う」と話され「1回戦は逆転サヨナラ勝ちというすばらしい試合だった。一日でも長く滞在してほしい」とメッセージを送られた。

営業部 フロント課

岡崎 優介さん

選手たちのお世話をしてくださっている、不死王閣の営業部フロント課所属の岡崎優介さんは「食事の数や時間を管理し、野球部のみなさんと窓口として対応している。」



普段は選手のみなさんの要望に応え、喜んで過ごしてもらえるように心がけている。朝ごはんの時間から晩ごはんの時間まで集中力を保つのが大変だ」と話され「次からもみんなが力を発揮し、やり遂げたと思える試合をして笑顔で勝ってほしい。より長い夏を宿舎で過ごしてもらいたい」と微笑まれた。

野球部 部長

松林 基之先生

部長の松林基之先生は「部長は大会との窓口になるため、特に大きな大会では重要な役

割となる。甲子園出場が決まっていたから、高等学校野球連盟の指示を聞いて選手が戸惑わないようにスムーズにスケジュールを組まなければならなくなつたので少し大変だ。大事なことを忘れないために必ずメモを取るようにしたり、しっかりと段取りができるように先を讀んで行動したりするように心がけている」と打ち明けられた。また選手に向けて「『ブレイクスルー』をモットーに壁を打ち破ってほしい」とエールを送られた。



野球部 顧問

間宮 真由美先生

顧問の間宮真由美先生は開幕戦を「相手の波佐見高校は振り目が鋭く次から次へと打ってくるので心配していた。9回裏では、このまま負けるわけにはいかないと頑張って

していた」と振り返られ、甲子園初勝利について「感激している。松井君が安打を打つたのを見てこれはいけるかもと感じた。アルプススタンドで応援することができてよかった」と笑顔で話された。また「甲子園での初戦で緊張しなかったと言っていた選手が多かった。頼もしく感じた。このまま自分たちの野球をしてほしい」と期待を込められた。

野球部 マネージャー  
植木 菜梨さん



マネージャーの植木菜梨さん(3-6)は選手の様子を「いつも通り楽しそうで、ご飯もしっかり食べられている」と明るい口調で話し「せっかくなの大きな舞台なのだから、怪我をせず楽しんでほしい。自分たちにしかできない、このチームらしいプレーをしてほしい」と語気を強めた。